

Les Vignerons d'Estezargues

エステザルグ協同組合

地域：Rhône

地区、村：Estezargues エステザルグ村

造り手：Denis DESCHAMPS ドウニ・ドウシャン

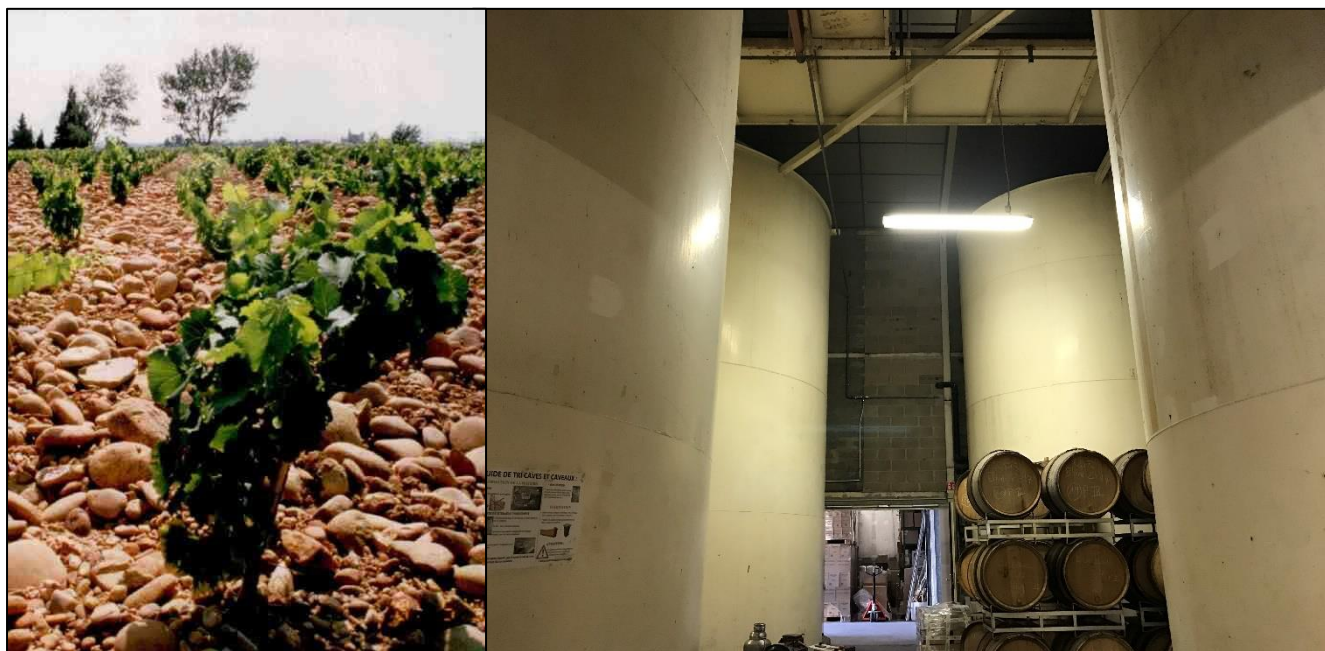


創業年：1964年

ワイナリーについて：

「フランス最小の協同組合」「ジャン・フランソワ・ニック（現フラール・ルージュ）が醸造長を務めた」などの修飾語で語られることが多い、エステザルグ協同組合。全くの日常的な価格にもかかわらず目覚ましく純度の高い味わいは、1980年代と90年代のヴァン・ナチュラルの黎明期に多くの人々の心をつかみ、現在でもパリやフランス全土で広く親しまれています。現在の醸造長、ドウニ・ドウシャンは2000年代に、エステザルグ協同組合の醸造長となり、以来、総栽培面積550ha以上、平均年産160万本という量を、毎年安定して生産していて、畏敬を集めています。それどころか、気候が変動により毎年のように降雨量や猛暑日の記録が塗り替えられていく中、毎年のように、目覚ましく純度の高い味わいのワインを造り出しています。

フランス最小の協同組合といえども、醸造長のドウニはワイン造り全体の手配を含めたマネージメントに多忙で、多量の事務仕事を抱えながらのワイン造りで、年間1万数千本の生産量のヴィニキュロンのワイン造りとは、出来ることと出来ないことはきっと違うのでしょう。以前はブドウの栽培農家によって、リュット・レゾネとビオロジック認証を取っている生産者がいましたが、2019年には組合でも最後の栽培農家がビオロジック栽培へと転換し、2021年VTからすべての栽培農家がビオ認証を取得します。そのため、複数の農家から供されたブドウをもとにしたブレンドワイン、〈キュヴェ・デ・ガレ〉や〈ブレン・シュッド〉も100%ビオロジック栽培のブドウとなります。



左：古い写真ですが、小石（ガレ：Galet）の多く転がる、一帯の典型的な畑の様子。

右：巨大なタンク。ボトル何本分だろうか。実際は、中は3層に分かれていて、それぞれの層のワインを循環させることで温度管理をしたりもできるらしい。